

受験を控えたわが子との接し方

かつて、大学生になりさえすれば、将来の立身出世が約束されていた時代がありました。帝大出身者などほんの一握りの人が「学士様」と呼ばれ、就職してからも昇進速度は段違い。高倍率の難関大学を目指して、知識を詰め込む受験勉強に取組み、試験が終わった途端、燃え尽きてしまう若者も存在しました。

今、大学は多くの人に門戸を開き、その役割も「一学生が続ける力の基礎を身につける所」へと変貌しました。つまり、大学入試はゴールではなく、むしろスタートになったのです。社会は毎年、劇的に変化し、「最新学習歴を更新し続ける」ことが求められている時代です。大学が実際に提供する「教育内容」が、一人ひとりに合っているかを確かめることが不可欠。一見、同じようなカリキュラムに見えても、どんな教員が、どんな指導を行なうかは、まさに千差万別なのです。

京都造形芸術大学のコミュニケーション入学は、向き不向きを確かめるチャンスになるでしょう。ですから、受験生は無理に飾ったり、とりつくろったりする必要はありません。「ありのままの自分」でいることが最も重要なのです。

そのために、親御さんができることは3つ。第一に「信じること」、第二に「見守ること」、第三に「健康管理」です。

親がつい言ってしまうがちなNGワードの代表が「大丈夫なの?」です。20世紀型の受験勉強とはだいぶ雰囲気が異なるので、必死で知識を暗記しているように見えないと、「勉強しているのかしら」と心配になってしまうものです。しかし、今の時代、豊富な知識を持っていることは、もちろんプラスですが、むしろ、Google や Wikipedia を適切に活用する「知恵」の方が大切です。

「大丈夫なの?」という言葉は、第三者から見れば「I love you」だとわかるのですが、言われたお子さんはそう言われると「信じてもらっていない」と感じてしまいます。ですので、言いたい気持ちをぐっとこらえて、温かい目で「見守る」ことが大切なのです。

高校生・大学生の娘・息子を持つ方は、「過干渉」と「過放任」の両極端にブレがちです。お子さんの状況をきっちり把握してはいるけれど、あまり細かく口出ししないことが、中庸のバランスではないでしょうか?

そして、健康管理はとても重要です。受験の本番当日に体調を崩しては元も子もありません。睡眠、栄養、うがい、手洗いなど、親が率先垂範することが重要です。親が不摂生しながら、「ちゃんと睡眠をとりなさい、栄養に気をつけるのよ」と伝えても説得力はありません。

お子さんにはぜひ、万全のコンディションで試験当日に臨んでいただきたいと思います。そして、出かける我が子には「きっと大丈夫!」と笑顔で声をかけて送り出すこと。それが、次の段階の笑顔を実現する「魔法の言葉」になるでしょう。

京都造形芸術大学教授
創造学習センター長

本間 正人

教育学を超える「学習学」を提唱し、NHK教育TVでビジネス英語を担当。一流企業でコーチングの講師を歴任。著書63冊。東京大学文学部卒、ミネソタ大学からPh.D.取得。



正解がない時代を生き抜くために、進化する芸術大学

保護者の皆さまへ

【特集】
受験前に何を
意識するべきなのか?

保護者の皆さまも、ぜひオープンキャンパスにご来場ください。

第4回オープンキャンパス 7月25日(土)26日(日)10:00~16:00

◆保護者向け企画/特別講演(14:20~15:40)

受験・進学を前にして 高校生の娘・息子とコミュニケーション講座

高校生の親御さんは、過干渉と過放任の間で揺れることが多いもの。中庸のバランスを保つために、コーチング的なコミュニケーションが有効です。本学の創造学習センター長(一般教養担当)で、コーチングの第一人者である本間正人教授が、「聴く力が人間力」「学習者としてのお手本を示す」「黙らせる詰問ではなく、引き出す質問」など、すぐに役立つツボを、誰もが楽しく参加できるワークショップ形式で紹介しします。ぜひ、お見逃しなく!



<http://www.kyoto-art.ac.jp/opencampus/>



京都造形芸術大学 オープンキャンパス 検索

次号 vol.4 は9月初旬発行予定/特集「今、社会で求められている教育とは?」

